

説明文の 要旨をえらぼう

なまえ _____

小4／文章を読んで、筆者がいちばん言いたいこと（要旨）を1つえらびましょ**う**ひづけ _____

1 気温と生き物を よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

春になって気温が上がると、多くの生き物が活動を始める。冬の間、土の中や落ち葉の下でじっとしていた虫たちも、あたたかくなると動き出し、えさを求めて姿を見せる。このように、気温の変化は生き物の活動と深く関わっている。

- 1 気温の変化は生き物の活動と深く関わっている。
- 2 生き物は気温が下がるほど活発に動く。
- 3 虫は一年中、同じように活動している。
- 4 気温と生き物の間には関係がない。

2 水のすがたを よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

水は温度によってすがたを変える。熱すると水じょう気になって空気中へ出ていき、冷やすと氷になる。同じ水でも、目に見える形は温度しだい大きく変わるのである。

- 1 水は温度によってすがたを変える。
- 2 水は熱すると氷になる。
- 3 水じょう気は冷やしても水にもどらない。
- 4 水のすがたは温度と関係がない。

3 森のはたらきを よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

森の木々は、根で土をしっかりとつかんでいる。そのため大雨がふっても土が流されにくく、山くずれを防ぐことができる。森はただ木が集まった場所ではなく、わたしたちのくらしを守るはたらきをもっているのだ。

- 1 森は木が多いほど木材がたくさんとれる。
- 2 森は大雨のときに山くずれを起こしやすい。
- 3 森はくらしを守るはたらきをもっている。
- 4 木の根は土をつかむ力が弱い。

4 生き物のつながりを よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

草を虫が食べ、その虫を小鳥が食べ、小鳥をさらに大きな動物が食べる。このように生き物は「食べる・食べられる」の関係でつながっている。どれか一つがいなくなると、このつながり全体に影響がおよぶ。

- 1 生き物どうしはたがいに関係なく生きている。
- 2 草を食べる動物はいない。
- 3 小鳥は虫を食べない。
- 4 生き物は食べる・食べられるの関係でつながっている。

説明文の 要旨をえらぼう【こたえ】

小4／文章を読んで、筆者がいちばん言いたいこと（要旨）を1つえらびましょ

なまえ

ひづけ

答えと、たしかめるところ

1 答え：1

最後の一文『気温の変化は生き物の活動と深く関わっている』が筆者の要旨です。

2 答え：1

全体をまとめた『温度によってすがたを変える』が要旨です。

3 答え：3

『くらしを守るはたらきをもっている』が筆者の要旨です。

4 答え：4

『食べる・食べられるの関係でつながっている』が要旨です。

読み取るコツ

だん落全体をまとめた一文（多くは初めか終わり）をさがし、その言いかえを選びます。

説明文の 要旨をえらぼう

なまえ _____

小4／文章を読んで、筆者がいちばん言いたいこと（要旨）を1つえらびましょ
ひづけ _____

1 ごみを減らすを よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

使えるものを大切に使い、いらなくなっても分けて出せば、多くのごみは資源として生まれ変わる。ごみを減らす工夫は、一人ひとりの小さな心がけから始まる。

- 1 ごみはどれだけ出しても問題ない。
- 2 ごみを減らす工夫は一人ひとりの心がけから始まる。
- 3 資源になるごみは一つもない。
- 4 ごみを分けても生まれ変わらない。

2 昔と今の道具を よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

昔の人は、火をおこすのにも水をくむのにも多くの時間と力をかけていた。今は道具や機械が進歩し、同じ仕事が短い時間でできるようになった。道具の進歩は、人々のくらしを大きく変えてきたのである。

- 1 昔の道具は今の道具より便利だった。
- 2 道具はいつの時代も変わっていない。
- 3 道具の進歩がくらしを大きく変えてきた。
- 4 今のくらしは昔より不便になった。

3 地図の記号を よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

地図には、田や畑、学校や病院などを表す記号が使われている。文字で一つ一つ書くよりも、記号を使うほうが、多くの情報をせまい紙面にわかりやすく表すことができる。

- 1 記号を使うと情報をわかりやすく表せる。
- 2 地図には文字だけを書くのがよい。
- 3 記号は地図をわかりにくくする。
- 4 地図に情報を入れることはできない。

4 天気とくらしを よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

人々は昔から、雲の動きや風のようにすを見て天気を予想し、農作業や漁の計画を立ててきた。天気の変化を読み取る力は、くらしを支える大切な知恵だったのである。

- 1 天気を読み取る力はくらしを支える知恵だった。
- 2 昔の人は天気を気にしなかった。
- 3 天気は農作業と関係がない。
- 4 雲や風から天気を知ることはできない。

説明文の 要旨をえらぼう【こたえ】

小4／文章を読んで、筆者がいちばん言いたいこと（要旨）を1つえらびましょ

なまえ

ひづけ

答えと、たしかめるところ

1 答え：2

『一人ひとりの心がけから始まる』が筆者の言いたいことです。

2 答え：3

最後の一文『道具の進歩が…くらしを大きく変えてきた』が要旨です。

3 答え：1

『記号を使うほうがわかりやすく表せる』が要旨です。

4 答え：1

『くらしを支える大切な知恵だった』が筆者の要旨です。

読み取るコツ

だん落全体をまとめた一文（多くは初めか終わり）をさがし、その言いかえを選びます。

説明文の 要旨をえらぼう

なまえ _____

小4／文章を読んで、筆者がいちばん言いたいこと（要旨）を1つえらびましょう。

ひづけ _____

1 月の満ち欠けを よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

月は日によって形が変わって見える。まるく見える日もあれば、細く見える日もある。しかし、月そのものの形が変わっているわけではなく、太陽の光の当たり方と見る方向によって、見え方が変わっているだけなのだ。

- 1 月そのものの形が毎日変わっている。
- 2 月の見え方が変わるのは光の当たり方と見る方向による。
- 3 月はいつも同じ形に見える。
- 4 月は自分から光を出している。

2 電気の通り道を よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

豆電球に明かりをつけるには、かん電池と豆電球を導線でつなぎ、電気の通り道を一つの輪のようにする必要がある。輪のどこかがとぎれてしまうと、電気は流れず明かりはつかない。

- 1 豆電球は導線がなくても光る。
- 2 電気の通り道は輪になっていなくてよい。
- 3 電気が流れるには通り道が輪になっている必要がある。
- 4 かん電池は明かりと関係がない。

3 植物の成長を よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

植物が育つには、水や日光のほかに、空気や適した温度も欠かせない。どれか一つでも足りないと、うまく育たないことがある。植物の成長は、いくつかの条件がそろって初めて進むのである。

- 1 植物は水だけあれば必ず育つ。
- 2 日光は植物の成長にいらない。
- 3 植物はどんな温度でも同じように育つ。
- 4 植物の成長はいくつかの条件がそろって進む。

4 光の進み方を よんで、この文章の要旨として、もっとも正しいものを1つえらびましょう。

光はまっすぐ進む。そのため、光がものにさえぎられると、その後ろに光のとどかない影ができる。影の向きや長さは、光の来る方向によって変わっていく。

- 1 光は曲がりながら進む。
- 2 光はまっすぐ進むので、さえぎられると影ができる。
- 3 影の長さはいつも同じである。
- 4 光と影には関係がない。

説明文の 要旨をえらぼう【こたえ】

小4／文章を読んで、筆者がいちばん言いたいこと（要旨）を1つえらびましょ

なまえ

ひづけ

答えと、たしかめるところ

1 答え：2

『見え方が変わっているだけ』とその理由が筆者の要旨です。

2 答え：3

『通り道を一つの輪にする必要がある』が要旨です。

3 答え：4

『いくつかの条件がそろって初めて進む』が筆者の要旨です。

4 答え：2

『まっすぐ進む→さえぎられると影ができる』が要旨です。

読み取るコツ

だん落全体をまとめた一文（多くは初めか終わり）をさがし、その言いかえを選びます。